

ニュース

新幹線全線開業へカウントダウン



COUNT DOWN 九州新幹線の風景

製造した日立製作所笠戸事業所(山口県下松市)を出発し、熊本港に到着後、陸揚げされる「さくら」。(写真は7月1日、午前8時20分頃)

新幹線「さくら」、熊本港で陸揚げ
 9月から博多〜新八代間、試験走行へ

▼▶ 7月2、3日には夜間に、熊本市富合町の熊本総合車両基地に搬送。9月から博多〜新八代間で試験走行を始める



熊本港に到着した新幹線「さくら」

来年3月の九州新幹線全線開業に向け、新大阪直通の新幹線「さくら」が7月1日、熊本市新港の熊本港で陸揚げされた。陸揚げ後にあったセレモニーでは、幸山政史熊本市長ら関係者が入港を祝った。同車両は「N700系」で1〜8号車の計8両。内装には木材をふんだんに利用しており、新大阪〜鹿児島中央駅間を最高時速300キロ、4時間前後で走る。7月2、3日には熊本市富合町の熊本総合車両基地に搬送され、今後は9月から博多〜新八代間で試験走行を始める。

駅前東口に“横断歩道橋”整備進む

駅と再開発ビルとの連絡通路に



駅舎エントランスから市電電停までを覆う大屋根が完成し、東A地区にまたぐ横断歩道橋の架設工事が進む駅前広場。



市電軌道と県道をまたぎ、東A地区へつながる歩道橋の外観が見え始めた駅前。写真右奥は駅前東A地区で建設が進む東A地区再開発ビル



年内完成へ工事が進む駅西口の駅前広場。主にバスやタクシーの乗車場を整備するほか、観光・団体バスの起点として期待される



▲大屋根が完成し、雨などでも濡れることなく乗り降りが可能となった駅前の市電電停

来年3月の九州新幹線全線開業を控え、熊本駅前広場には駅舎エントランスから市電電停までを覆う「大屋根」が完成、このほど駅前東口から東A地区再開発ビルまでを結ぶ「横断歩道橋」の外観が姿を現してきた。

歩道橋は東A地区再開発ビルとの連絡通路として整備を進めているもの。長さは約100メートル、幅約5メートルで、熊本駅側と東A地区側にそれぞれエスカレーターやエレベーターを整備し、来年3月の供用開始を目指す。

一方、年内完成へ工事が進む駅西口広場(約5700㎡)では、観光・団体バスの拠点として、主にバスやタクシーの乗車場が整備されており、さらに西口の新幹線高架下にはJR九州が物販・飲食施設と立体駐車場を建設する。こちらは9月上旬に着工し、来年3月1日に開業を予定している。